

3 交流の時は共通指導演案を活用しよう

活動 指導

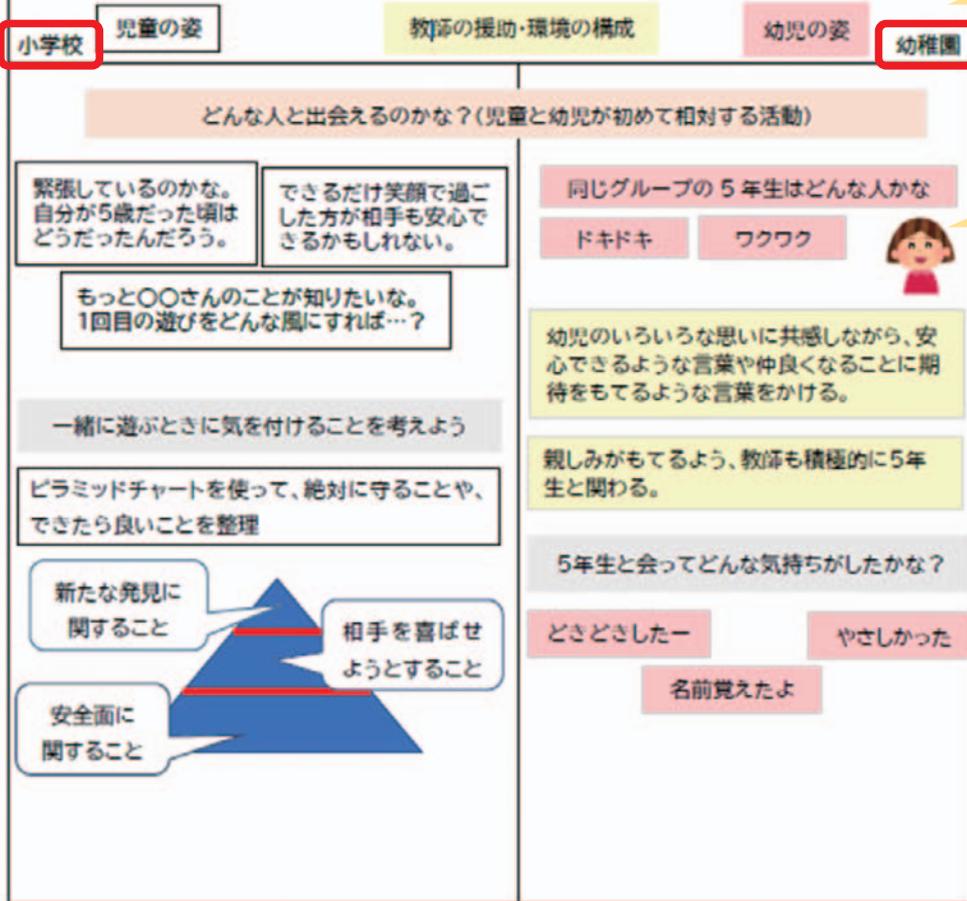
教育課程に位置付けている学習・保育ですので、その活動を通して育みたいことが幼稚園にも小学校にもあります。それぞれの子どもたちに育みたいことや教師が意図していることを分かりやすくするために、共通指導演案を活用して、打合せや活動内容の共通理解を図りました。

そうすることで、幼稚園教諭が児童に、また小学校教諭が幼児に関わる場面でも子どもの発達の段階に応じて適切に対応することができるでしょう。

共通指導演案

本取組では、白楊小学校の第五学年の児童と白楊幼稚園の年長組の幼児が遊び等の交流を行う。
小学校は「総合的な学習の時間」のカリキュラムの一つと位置付ける。接し方はもちろん、遊びの選択、創造などを含めたコミュニケーション活動を主活動に据え、インタビューなどの情報収集、思考ツールを活用した情報の整理などにも取り組む。最後には、「わたしの5・5デーBOOK」として、活動を他者に伝えようとする。
幼稚園は幼児と児童と一緒に遊んだり活動したりすることを通して、その楽しさを感じ、親しみや安心感、信頼感、憧れの気持ちを持ち、小学校への期待を高めることをねらいとする。

ねらい	5歳児	5年生に自分の思いや考えを言葉で伝えながら一緒に遊びや活動を楽しむ。
	5年生	園児との遊びや先生や親へのインタビューを通して、幼児期の子どもの思いや育ちを理解し、望ましい接し方を考えとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。



この活動や学習に対する願いやそれぞれに育みたい力を共有

事前にそれぞれの箇所を入力し、データを統合

5年生が入力した内容を受けて幼稚園の指導や5年生とのかわりを工夫することもあり

アドバイザーより
 思いを共通にするツールによって「一緒につくっていく」という考えになりますね。また、打合せ時間の効率化にもつながるのではないのでしょうか。

共通指導演案(実践)の続きは

20 ページ